

国土交通省東北地方整備局 局長 部長勉強会20051006

頭の整理の際に簡単なブロック図的なものは書いていて、先生の話に我が意を得たり

説得型から納得型へ、納得型から参加型、このことは十分納得した 特に公共事業では、参加型の典型として「住民発意型」と思っていただけの仕組みづくりが重要だと思う

目の前で図を書きながら、説明する人も少ないながらも、そのような人はやはり自分の考えをしっかりと持っている人のような気がする

受講して、まさに自分が箇条書きの御役人間だと実感した ただ周りには当然だが 民間の方も含めて同類人間が大多数かと思う 現実的には、図解の効果を無意識に認識していても、日々仕事に追われる中で、その感覚を鍛えるのは並大抵のことではないという気がする そういう考えでは進歩しないのだろうか

先生の斬新な考えには全体的には賛同するが、以下の点については意見が異なる

1. 箇条書きではいけないという考え方に必ずしも賛同できない 箇条書きでも言いたいことは十分に伝わると思う
2. 定量的評価がよくないという考え方に必ずしも賛同できない 定量的に表現できるものは定量的に評価した方がよい

評価をどはかるかと思ってしまう意識が自分の中に残っている そこを関係者が納得していただく測り方(手法、システム)が必要だと感じた

物事への考え方、アプローチの仕方が非常に参考になった 役所は文書、箇条書きの社会文章を書いてグレーにしておく部分が多くわかりにくい面が多々見受けられる これまでは大量の文章を読むときには、まず目次を見て全体を把握した上で、主語と述語を居って行くという読み方をしていた先生のご提唱の方法であれば、全体像を一目でわかるので、読む人にとっては非常によいと感じている 作成する方は頭を使って大変だが、頭の整理に良いと思う

図解により説明が効果大ということはかなり納得 行政においては日本が文書主義社会から図による社会へと変革することの難しさを実感 図解では説明者があって初めて効果が発揮されると感じるが、長期にわたって、文書を保存する病勢では一般化することが難しいような気がする

可能であれば 図解(二次元)から三次元での情報整理に展開できるシステムが欲しい 国交省は前任者の情報を引継がない」ということは課題であると考えられているが、事業量と実施のスピードを求められて来た経緯からやむを得なかったと思う

確かにこれまでの行政は、官側の方針政策で相手を説得することに力を注いできたように思える 文章から図解にすることによって相手方の誤解が最小限になる可能性があり、これこそが合意になるかもしれない行政「評価」でなくて「評判」などたくさんいただいたキーワードを今後の業務に活かしたい

物事を考える力が図解により鍛えることができるということは非常に参考になる

他人が書いた図は理解するまでに時間を要し 解説文がないと図解に至らない場合があると思う 訓練によって解読の速度が上がるものなのだろうか

ご指導いただいた内容を今後の業務に役立てることができればと思う

説得型行政から納得型行政へ 誰のための行政か思い知らされた 今までは、要点を箇条書きにし、要点は着色または、太字として説明していたが、図解とし、読む会議資料にしたいものだ 慣れるのは大変だろうが

先生のご講演後、図解技術について大いに関心が高まり「合意術」及び「図で考える人は仕事ができる」の二冊を読ませていただいた それを参考に会議にてプレゼンをさせていただいたが、まだ未熟なためうまく資料を作れなかったが引き続き勉強させていただく 先生のビジネス教授日記の配信が可能であれば配信をお願いしたい

箇条書きと図化との違いが理解できた自分でも図化にトライしてみる 現在流行のNPMが、欧米からの輸入、マネに過ぎないという指摘は、自分がこれまで感じていたNPMへの取り組みについての違和感と呼応した

国は完璧な資料を作成している 少しは手を抜いた図を資料を作成すべきという先生のお話は、まさにそのとおりだと思う